

6

学生主体のジェンダー平等をめざした活動 ～いわて男女共同参画フェスティバルへの出展～

准教授 熊本早苗 (盛岡短期大学部)



原則10： 異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

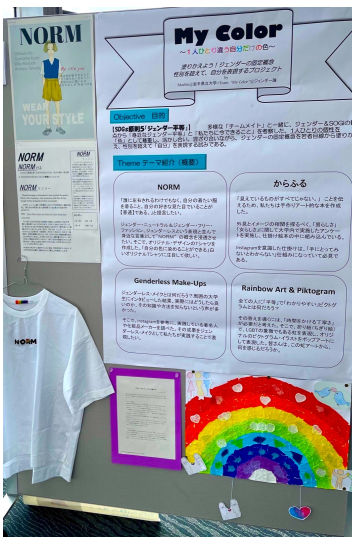
1. 概要

本学の学生団体Marble（マーブル）と、盛岡短期大学部国際文化学科「ジェンダー論」履修者が協働しパネル等を出展した。本学において学生主体のジェンダー平等を推進する活動の一環である。ジェンダー平等に関する原則3のみならず、海外（特に英語圏）の先駆的事例を調査・紹介することで、原則10にも合致する取り組み内容を目指した。

今年度のいわて男女共同参画フェスティバルの全体テーマは「笑って考えよう！ひとり1人の幸せのために」であった。コロナ禍においてオンライン開催であったことから、本学からは約52名の学生がチーム制で事前にポスター等の作成を行い、フェスティバル当日は出展という形でフェスティバルに参加した。出展したポスター類は、いわて県民情報センター（アイーナ）において約1週間展示された後、岩手県男女共同参画センター公式Youtubeチャンネルから配信された。



2. 活動の内容



学生団体Marbleは、本学の短大・大学生が中心となり、性の多様性への理解を深め、性別に基づく固定的な役割分担意識や偏見をなくし、誰もが自分らしくいられる場所を創り出そうとするサークルである。コロナ禍であっても私たちの学びを止めてはならないという意識から、「いわて男女共同参画フェスティバル」へ出展申請し、採用された。原則10を意識し、「今だからこそ、私たちにできること」を追求した成果である。私たちはパネル展示のテーマを“My Color”とし、Rainbow Prideにちなみ7チームを編成した。

その目的は、1人ひとりの個性を「色」として尊重し、活かし合い、ジェンダーの固定概念を若者目線から塗りかえ、性別を超えて「自分」を表現することにある。具体的には、ジェンダー平等に配慮したピクトグラムや、ジェンダーレスのオリジナルTシャツ、そしてLGBTQ+の理解を深めるための手作り仕掛け絵本を作成・展示した。この展示では、成長し続ける学生の「今」の輝きを“My Color”として表現できたと思う。

